



## 新茶のご案内

2026

いつも当園のお茶をご愛飲いただきありがとうございます



・2025年5月11日撮影 梅ヶ谷茶園  
短い春の陽気の間に2台の茶刈機で大急ぎで新茶の収穫を進める。  
日中の日差しは夏を感じさせる強さ。

今春、月ヶ瀬梅林の梅の花は、例年より一週間ほど早く咲きました。これから寒暖を繰り返しながら、茶園や野山の新芽が膨らんでいきます。茶園では、一昨年の夏に続き、昨年の夏も高温と更なる雨不足となり、この干ばつの影響で今年の収量は少なくなりそうです。しかし、今春は3月終わり頃からは雨量もあり、これからどのような育ち方をしていくのか、興味深く見まもる毎日です。

一年の最初に収穫する一番摘みの新芽は、秋から冬のあいだ、茶樹の根や茎にじっくりと蓄えられていた栄養を源に少しずつ芽吹かせていきます。そして茶の新芽が萌芽してからも、朝の気温は5℃近くまで下がり、奈良・月ヶ瀬の山間地特有の昼夜の寒暖差のリズムを繰り返すなか、ゆっくりとゆっくりと生長することで、重みのあるひき締まった新芽に育ちます。夏は「葉」を、秋は「実」を、冬は「根」を、そして春には「芽」を…。というように、タケノコやワラビを食べるように、新茶の時期には茶の新芽の勢いを体に取り入れることが、一年を元気で過ごすためにも大切なことだと考えています。

これから、収穫を終える日まで、晩霜（ばんそう）や雹（ひょう）など、気が抜けない日々が続きますが、順調に生育してくれることを願っています。緊張感高まる新茶のシーズン、皆で力を合わせ、仕上がった新茶を出来る限り早くお届けできるよう、収穫・製茶・袋詰め・箱詰めと精一杯頑張ります。今季も、よろしくお祈いします。



・2025年6月26日撮影 山ノ下茶園  
6月末なのに最後の梅雨空。  
雨季が樹勢回復のための大切な期間になりますが、  
2025年も20日以上早く梅雨明けとなりました。

**近**年は「春らしい陽気」「秋らしい陽気」の時期をしっかりと経ずに、冬から夏へ、夏から冬へと一気に季節が移り変ってしまう気候になり、夏は暑く、夕立が極端に少なくなりました。私自身が農業を営みつつける中で、もう以前のような気候に戻るようなことはなく、これからは春や秋が短く、夏は高温になって雨の降り方が不安定になるような気候が常態化していくのではないかと感じています。

当園では、自然のリズムで素直に育つお茶の美味しさをお届けさせて頂けるよう意識したお茶づくりを進めてきましたが、気候が変わればお茶の育ち方も変わります。気候変動に対して、私たちも柔軟に適應していくことが大切になると考えています。そこで当園では、次のような取組を進めることで、これからも奈良・月ヶ瀬の自然のリズムで素直に育つお茶の美味しさをお届けさせて頂きたいと考えています。



・周囲に生えている野生のススキまで、干ばつの影響を受けました。  
2025年9月3日撮影

## クオリティーシーズンに お茶をつくること

**ク**オリティーシーズンとは、お茶の品質が最も充実し、その茶葉の特徴が表れる旬の収穫時期のことになります。5月の新茶の収穫時期が、まさにクオリティーシーズンになるのですが、春らしい陽気が短くなったことで、品質の高い状態で新茶が収穫できる期間も短くなりました。そこで、当園では今季から秋新芽の収穫専用茶園をつくり、秋のクオリティーシーズンも活かす取組を始めました。これまでの経験から、日本由来の品種で煎茶をつくる場合は一年の中で5月に収穫する新芽の品質が最も高いと感じるのですが、暑い国のアッサム由来の品種で紅茶などをつくる場合は夏や秋に収穫した新芽も季節ならではの茶葉の特徴が表れる傾向がありました。秋新芽が順調に育つかどうかは8月以降の雨量にも大きく影響され収穫量は不安定になると思いますが、その茶園のその時期の茶葉が、一年の中で最も特徴が出るタイミングで収穫してお茶をつくることで、最善を尽くしたお茶をお届けさせて頂きたいと考えています。

## 実生茶園を活かすこと

**実**生茶園とは種から育てた茶樹でつくった茶園のことです。昔は種を植えて茶の木を育てていましたが、昭和40年代以降は挿し木から育てた茶園が一般的となりました。「挿し木」と「種」、それぞれから育った茶樹の根を比べてみると、前者は枝から発根するので根が枝のように横に広がるのに対して、後者は太い根が真っ直ぐ重力の方向に伸びる傾向があります(写真1)。このように、地中深くまで直根が入った実生茶は、地下の水脈のある深さまで根が入り、地上部の気候の変動の

影響を受けにくいとされています。当園には昭和40年代より昔に植えられた樹齢の高い実生茶園の他、平成29年から種を植えた樹齢の若い実生茶園があるのですが、干ばつの時、挿し木から育った茶園と比べると、やはり実生茶のほうが安定して育ちつづける力がありました。未来に向けて茶山に種を植え、6~9年が経つ幼木実生茶園では少しずつ収穫を始めています。種の生命力を活かしたお茶づくりを進め、これからの時代に私たち人間も生きていくなかで種の生命力を戴くことが必要になるのではないかと考えています。



(写真1) 挿し木から育った茶樹(左側) と実生の茶樹(右側)  
・奈良・月ヶ瀬の茶山の斜面で、樹齢が60年ほどの挿し木で育った茶樹と実生の茶樹を抜根して、比較しました。



・干ばつが続いても安定した生育をした当園の実生茶園  
(写真手前)と干ばつ被害が出始めた慣行茶園(写真中央の上)。  
干ばつの影響でススキの色合いも例年より黄色味を帯びていました。(写真中央)

## 奈良・月ヶ瀬の 立地条件を活かすこと

当園の茶園は山間(やまあい)に30か所以上にも点在しており、茶園ごとに、方角、地質、土質、茶園のかたち、傾斜度、陽当り具合、標高などの自然条件が多種多様です。農薬も化学肥料も使わず自然のリズムを意識した栽培を継続することで、生育環境の違い「テロワール」によって、お茶の育ち方が異なり、飲んだ時の体感の違いにも表れてくることが明瞭になってきました。しかしながら、その違いの理由を説明しようとした時、これらの自然条件の違いだけでは、まだ説明がつかないことがあり、お茶の生育に影響を及ぼしている要因が、もっと他にもあるのではないかと感じています。その要因として一つ考えられることは、茶園ごとの立地条件の違いによって、天体の力の受け方に違いがあるのではないかとということです。と言いますのは、太陽や月の力を受けているのは、私たちの日常で実感している明らかなことなのですが、火星や水星、木星、金星、土星になると全く意識していません。例えば、太陽から日光を受けて植物が光合成をおこない緑色に関係していることは学校でも学ぶことで、実際に当園では、茶樹が育つ斜面と日光の当たり方との微妙な角度の違いによって、太陽から受ける力(日光)が微妙



・月ヶ瀬の茶山の地形

に異なり、立地条件の違いが茶樹の生育の仕方に大きな影響を及ぼしています。他にも、月の引力で潮の満ち引き等があるように、その他の天体からも何らかの微妙な影響を及ぼしていることに未だ気づいていないとすれば、天体と立地条件と茶樹との関係性を観察して、これからの農業に活かすことが出来るのではないかと思

うのです。これは平地ではなく、山間地の自然条件が多様な立地に茶園が点在する恵まれた環境であるからこそ、その違いを比較観察することができるのだと考えます。

この気候変動の影響下でこそ、おいしいお茶をお届けしていきたいと思ひます。

### 茶園の隅でハタケシメジが採れました

日常の茶園管理をするなかで、茶園と隣接する周囲の環境を、どのように管理していくかも大切なことだと考えています。もし茶園の隣に、たくさんの笹が生えている場合、茶園に笹の根（地下茎）が伸びてきて、放っておくと茶園が笹に覆われるようになります。その笹対策を試行錯誤した結果、隣接部の笹を春から夏の時期に数回、刈り続けることで、笹が衰退して異なる植生に変化してくることが分かってきました。この作業を数年間継続したことで、今年の秋、野生のハタケシメジが発生した所もありました。ハタケシメジとは、とても美味しい野生のキノコで、草（イネ科などの草）を刈り倒した所に生える習性

があることから、除草剤などを使わない農作業の営みから戴くことができた自然の産物だと考えています。



・茶園の周囲に生えた「ハタケシメジ」2025年11月3日撮影。汁物に調理して美味しく戴きました。



文：岩田文明



奈良でお茶をつくっています 月ヶ瀬健康茶園

<https://www.tukicha.com/>

発行

月ヶ瀬健康茶園株式会社

〒630-2302 奈良県奈良市月ヶ瀬尾山1965

TEL.0743-92-0739 FAX.0743-92-0737

e-mail. info@tukicha.com